

第4回米沢市総合計画審議会 会議録

1 日 時 令和2年3月16日(月) 14:00～15:50

2 場 所 置賜総合文化センター 203研修室

3 出席委員

尾形健明会長、相田哲郎委員、赤井直美委員、鹿俣貴裕委員、佐藤和子委員、柴田正孝委員、白石祥和委員、須藤昌志委員、須藤正彦委員、清野雅好委員、高澤由美委員、長谷川健委員、吉澤彰浩委員、渡邊修一委員、

以上14名

(大和田浩子委員、小関洋子委員、松田智博委員は欠席)

事務局

副市長、総務部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、上下水道部長、市病事務局長、教育管理部長、教育指導部長、会計管理者、議会事務局長、建築主幹

(企画調整部長は欠席、建設部長欠席により建築主幹代理出席)

総合政策課 課長、課長補佐、企画調整主査、担当

4 会議録

(1) 開会

(2) 副市長あいさつ(要旨)

副市長 皆様こんにちは。お手元にコロナウイルス対策についてのチラシを配布させていただいた。米沢市では、先日既に感染対策本部を立ち上げた。幸い、山形県内には感染者がまだ出ていないようだ。市内は、雪不足に引き続き、コロナウイルスの影響による先行きの不透明さで景気が悪くなっているようだ。市としても、感染対策本部の中で、経済的対策を検討していければと感じている。本日の審議会では、前回委員の皆様からいただいたご質問にも回答していくつもりなので、よろしくお願ひしたい。

(新型コロナウイルスについてのチラシを参考資料として委員に配布)

(3) 会長あいさつ(要旨)

会長 皆様こんにちは。いつも、審議会の進行に御協力いただき感謝している。連日のコロナウイルス報道に気が滅入るが、それに怯えることなく、しっかりと総合計画の策定を進めていければと思っている。本日も、御協力をお願いしたい。

(4) 議事

事務局 審議会条例第5条第2項の規定により、会長が議長となることとされているため、尾形会長に議長をお願いしたい。

会長 それでは、議事に入る。本日の会議については、午後4時くらいまでには終了したいと考えているため、委員の皆様のご協力をお願いする。はじめに(1)まちづくり総合計画後期基本計画(案)について、事務局から説明願う。今回は、第1章・第3章について検討をお願いするが、章ごとに事務局から説明をいただき、その後、委員の皆様にご質問・意見をいただきたい。今回のコロナウイルスへの対策等についても、計画に反映できればいいのではないかと思う。

事務局 資料1「審議会における基本計画見直しの進め方について」に基づき説明

- 改定内容が分かりやすくなるよう、後期基本計画（案）については、前期基本計画を見え消し修正して提示している。
- 後程、後期基本計画（案）の中身について説明した後、委員の皆様から意見をもらうことになるが、本日不十分な点については、後程「質問等記載様式」に記載し、事務局まで提出して欲しい。

事務局 資料2「米沢市における婚姻と出生について」に基づき説明

- 資料2は、前回の審議会で、委員よりいただいた「全国的には、結婚した女性の出生率はあまり変わっておらず、婚姻率が下がっていることにより、出生率が下がっている。その辺りについての米沢市のデータはないのか。」という質問への回答となっている。
- 米沢市内においても、男女共に未婚率は、年々上昇し、それに伴い有配偶率も年々下がっている。一方、有配偶出生率については、少し減少傾向が見られるものの、S55年とH27年を比較しても、あまり低下していないことが分かる。委員の指摘どおり、結婚した女性の出生率はそれ程低下しておらず、出生率の低下には、婚姻率の低下が大きく影響していることが、米沢市の数値を見ても読み取れる。
- 参考資料2は、嫡出子数を推計するためのグラフ表となっているので、後程参考に見て欲しい。

健康福祉部長 前回審議会で委員から提示された質問について補足説明

（不妊治療について）

- 保険が適用にならない人口授精・体外受精・顕微授精については、市では県の助成に上乗せを行っている。特定不妊治療（体外受精・顕微授精）は、県の助成を超えた費用について、15万円を限度として助成をしている。また、一般不妊治療（人口授精）は、本人負担額の7割を助成している。
- 精神的なサポートについては、市では、保健師が健康相談の一環として、不妊治療相談を受けることが可能だ。県では、不妊専門相談センターを山形大学医学部に委託をして設置している。予め予約をすれば、専門医に対面及び電話での相談ができるようなので、あわせて案内させていただきたい。（不妊専門相談センターについての県HP写しを参考資料として委員に配布）

（子育て中の母親の精神的サポートについて）

- 米沢では、子育てハンドブックを3,000部作成し、母子健康手帳交付時や、子どものいる世帯が市内へ転入してきた際に配布している。ハンドブックには、子育てについての相談先として、市内子育て支援センター（4箇所）や、子育て支援室・子育てサロンについての情報が記載されている。
- また、子育て世代包括支援センターについての情報も掲載している。当センターは、健康課内に設置され、10人程の保健師が母子保健コーディネーターとして配置されている。専門的な見地から、妊産婦や子育て世帯の相談に応じたうえで、医療機関・子育て関係の機関と連携して子育て世帯の支援を行っている。妊娠・子育てについて気軽に相談いただき、母親に安心感を得てもらいたいと考えている。

（子育てハンドブックから、妊娠・出産・健康ページ写しを参考資料として委員へ配布）

（単身高齢者への支援について）

- 単身高齢者に限ったサービスではないが、高齢者在宅福祉サービスについてまとめた

資料があるので見て欲しい。高齢者の見守りについては、見守り支援や、愛の一声事業、安心電話といったサービスを実施している。また、高齢者の生活支援としては、ホームヘルパーの派遣や、生活援助員の派遣、雪下ろしの助成、除雪援助員の派遣等を実施している。(米沢市高齢者在宅福祉サービス一覧案内チラシを参考資料として委員へ配布)

- 市では、介護予防についても力を入れている。どなたでも参加できるものから、年齢、介護認定等の対象者を限定したものまで様々な介護予防事業を行っている。

(米沢市が行っている介護予防事業案内チラシを参考資料として委員へ配布)

会 長 ここまでの説明について、質問はあるか。

委 員 参考資料 2 有配偶率説明データでの出生数は、実際にその年度内に米沢市で出生した子どもの人数ということでもいいのか。少ないようにも感じる。

事務局 その年内に、実際に出生した子どもの人数を記載している。

委 員 資料 1 から、米沢市でも全国的な傾向と同じであることが良く分かった。やはり、市として結婚ができるような施策を実施することが有効だと感じる。そういった観点を持って、市でも総合計画を改定して欲しい。

委 員 高齢者に対し、様々なサービスが実施されていることが分かった。サービスを受けるにあたり、申請書に緊急対応できる方の記載が必要とあるが、孤立している人、家族が遠方に住んでいる高齢者の場合、民生委員等が対応しているのか。また、完全に孤立していて、市役所まで足を運ぶこともないような高齢者に対しては、どのような支援をしているのか。

健康福祉部長 実務的には様々なケースがあり、サービス実施にあたり対応が難しい場合もあると思う。

会 長 他に質問がないので、「後期基本計画(案)第 1 章」について事務局から説明をお願いします。

事務局 資料 3 「まちづくり総合計画後期基本計画(案)第 1 章」に基づき説明
(事務局からは、主な修正点を中心に読み上げて説明)

会 長 質問・意見はあるか。こういった施策が必要だということも教えて欲しい。

委 員 資料 3 の 1P 現状と課題(3 つ目の○)に記載されている内発型産業とは何か。

産業部長 地域内で研究開発を進めた結果、産業が起きるという意味合いだ。

委 員 資料 3 の 1P 現状と課題(3 つ目の○)に、「本市の商工業を振興していくためには、大学の研究内容や地元企業の技術等を活かした内発型産業を…」という記述があるが、国内で生き残るためには、最新技術やイノベーションが必ずしも必要ではなく、スピードや品質・多様性が重要であり、それらを工夫して組み合わせ優位性を生み出していくことが大切だ。また、遠隔地の在宅ワークも、米沢では有効だと思う。最新技術というのは、なかなかすぐに生み出せるものではない。そのことを踏まえて、もっとこの部分を分かりやすいような言葉にして欲しい。

産業部長 総合計画は夢や希望が盛り込まれた計画になっているため、ハードルが高い事業内容だということは分かっている。そのような中でも、少しでも付加価値額を上げ、所得を向上できればと考えている。頂いた意見については検討したい。

委 員 施策 1-1 商工業の振興に、IT 産業を第 3 の柱として入れてはどうか。八幡原

中核工業団地が用地的に狭まっている中、メルカリのような、アイデアを活かした企業が必要なのではないか。IT産業というキーワードが、雇用など多様な部分にもつながっていくと思う。

- 産業部長
委員 IT産業について、具体的な表現部分は見つけれないが、検討していく。
米沢ブランド戦略事業で、TEAM NEXT YONEZAWA 登録数が現在 159 件とあるが、後期基本計画の指標に入れたいのか。
- 産業部長 内部的には、目標値を設定している。我々としては、広く市民に参加いただき、登録件数を 300 件までは増やせるよう、事業所・各団体へ声掛けをしている状況である。
- 委員 後期目標値設定基準について聞きたい。基準年度は、直近の数値だと思われるが、年度が様々なので統一した方がいいのではないか。また、後期目標値の設定基準についても教えて欲しい。
- 事務局 後期目標値には、前期から継続しているもの、今回新たに追加したものがある。基準年度は、前期から継続している目標値については、当初目標値を設定した平成 25 年もしくは 26 年となっており、新たに追加した目標値は、平成 29 年もしくは、30 年度と直近の数値になっている。
- 委員 基準年度については、理解した。後期目標値の設定基準について、必達の目標なのか、あくまで希望値なのか教えて欲しい。
- 事務局 基準年度については、確かに統一されていないと分かりづらいため、直近の数値で統一して改めて提示させてもらいたい。また目標値については、それぞれの担当課で、実現可能な数値として設定した数値である。
- 委員 基準値や前期目標値と比較して、飛躍した数値があるように思ったため、参考資料として各課での目標値設定根拠を示したロードマップのようなものを提示してもらえればと思う。
- 事務局 目標値数が多いので、どのように提示できるか検討したうえで、皆様に提示したい。
- 委員 施策 1－2 観光分野について、道の駅米沢の来館者数が増えている一方で、最近上杉神社・御廟所周囲など古くからの観光地で、観光客が減ってしまっている。今後、道の駅と、市内観光地が相乗効果を上げられるような取組が必要だと思うが、産業部の考えを聞かせて欲しい。
- 産業部長 まちなかの観光客が減少しているのは承知している。様々原因はあると思うが、今年の異常気象が大きく影響しているのではないか。道の駅米沢については、ゲートウェイ構想の中心として、ここを拠点に置賜 3 市 5 町へ観光客を誘客することができるよう、情報発信機能を持たせている。置賜定住自立圏構想での取組として、今後も置賜 3 市 5 町と協力していく中で、道の駅米沢を起点にまちなかを含めた置賜圏域へ観光客を誘導するよう、市でも積極的に取り組んでいくが、事業者の皆様にも、自ら情報発信をするなどのご協力をお願いし、相乗効果を高めたいと考えている。
- 会長 市でも、道の駅米沢からまちなかへのバスを運行するなど、色々と対策はしているようだ。今後も、相乗効果が上がるよう取り組んで欲しい。

委員 観光について2点お聞きしたい。1点目としては、7Pの目指す目標値2「温泉地入込数」の後期目標値が、前期目標値より下がっている理由を教えて欲しい。2点目として、総合計画に記載されている観光は、レジャー目的の観光客に限定したものとなっているのではないかと思う。米沢には、ビジネス目的、あるいは、大学の会議等、いわゆる MICE（マイス）目的で訪れる人も多い。こういったビジネス目的の観光客についての記述、あるいは、交流人口・関係人口の拡大に向けた取組についての記述も必要ではないか。

事務局 1点目の目標値について回答する。温泉地入込数は、H30年までの間に11万7千人程度まで減少してしまった。そのため、当初目標を設定したH26年の実績程度までに回復させたいという目標値設定になっている。

産業部長 市でも、様々な観光形態があると考えている。最近では、チャーター便乗入により台湾や東南アジアのインバウンド観光客が増えているが、元々米沢には、八幡原工業団地にビジネス目的で訪れる欧米系のお客様も多い。また、山形大学を中心とした学会等イベントも多いことから、観光コンベンション協会を中心に、会議等の誘致に向けた取組を行っている。そういった取組みについても、総合計画内で記載した方が分かりやすいと思う。

委員 温泉地入込数の前期目標値について、今後変更する予定はあるのか。

事務局 前期目標値は、あくまで当初設定したものを掲載しているもので、変更する予定はない。

委員 山形県では、現在パブリックコメントを実施している「ものづくり産業振興戦略」において1兆4千億円の付加価値額を目標値として定めている。工業都市である米沢も、県と同様のベクトルを持ち、今回の総合計画において付加価値額を1,400億円まで上げるという目標値を設定していることは評価できると思う。観光については、今後も、上杉神社・松が岬公園周囲が米沢市の観光中心地であることには変わらないので、この辺りの基盤整備と道の駅との連動性が、後期基本計画で重要だと思う。また、総合計画において、市民・地域・事業者等に期待する役割が記載されている点も評価に値する。行政の施策が非常に効果をもたらす分野、民間の力が重要となってくる分野など様々ある中、市役所だけでなく、官民一体となって施策を進めることは、非常に重要だと思う。

会長 他に質問ないので、次の「後期基本計画（案）第3章」について事務局から説明をお願いしたい。

事務局 資料4「まちづくり総合計画後期基本計画（案）第3章」に基づき説明
（事務局からは、主な修正点を中心に読み上げて説明）

会長 質問・意見はあるか。

委員 会長が先程触れられていた新型コロナウイルスだが、山形県で、コロナウイルスが発症していないのは、皮肉にも人口密度が低く、交流人口が少ないからかもしれない。このような感染症への対応と一般的な健康への取組は、また別の次元の話かもしれないので、施策3-1で言及することが適切かどうか分からないが、資料4・2P施策3-1-1からだの健康づくり（〇一つ目）に、「がん予防、生活習慣病予防、感染症予防、」と感染症予防の記載はあるが、リアルタイムな情報提供

についても言及した方がいいのではないか。日々状況が変わっていく感染症において、迅速な情報提供こそが大切だと思う。現状、デマが流れ、市民が不安に感じている原因は、市民が欲しい情報を得られていないからでないか。市民が不安に感じる際には、公的機関から正確な情報を取得しようと努めることも大切だ。

健康福祉部長 新型コロナウイルスは、県の保健所が相談窓口になっており、施策3-1で記載している感染症予防というのは、一般的な感染症予防のことを記載している。新聞・テレビなどでコロナウイルスに関する情報が日々流れる中、市でも県などから最新の情報収集に努め、先程配布したチラシを作成し、HP等出来るだけ最新の情報を掲載するよう努めているのでご覧いただきたい。

副市長 チラシの裏面にあるように、市でのコロナウイルスの受付窓口は、危機管理室となっている。リアルタイムな情報提供については、情報提供といってもSNS等様々な情報提供ツールがあるので、その辺りも含めて加筆などを検討していきたい。

委員 いくつか質問させていただきたい。資料3・4Pの目指す目標値において、例えば子宮頸がんのように、健診受診率実績が低い中で、健診受診率を上げる取組をしていれば教えて欲しい。また、以前子宮頸がんワクチンの副作用が全国的に問題になり、ワクチン接種率が低くなっているようだが、それについては、市でどのように考えているのか教えて欲しい。

資料4・6P施策の目指す姿において、「若者が安心して子どもを産み育てられ、」という記述があるが、不妊治療に取り組まれている方には、40代の方もいるため、若者という表現について、別の表現を考えてみてはどうかと思う。また、新型コロナウイルスによる臨時休校で、授業が突然終了し、新しい学年を迎えることになった。精神的な面、学習の面でも非常に不安があるが、新年度に向けて市ではどのように考えているのか教えて欲しい。

健康福祉部長 特定健診受診率について説明したい。目標値に対し、H25年実績は、30.1%と確かに低い数値となっている。国の方で、特定健診受診率の目標値を60%と定めていることから、米沢市でも60%達成に向け取り組んでおり、H30年実績では、42.7%と県最下位を脱出することができた。受診率向上に向けた取組として、レディース健診で託児を準備したり、対象者が40歳以上となる特定健診について事前に35~39歳の方に案内をしたり、未受診者へ電話で勧奨したりするなど細かな取組を行っている。

子宮頸がんのワクチンについては、市として積極的にワクチン接種は進めていないという認識だが、確認して次回説明したい。

また「若者が安心して～」という表現については、より適切な表現に変更したいと思う。

教育指導部長 学校の臨時休業に対する対応について回答したい。3月2日からの休業であったため、未習部分が大量に残ってはいないと考えている。基本的には、新年度に、休業中の勉強を補足することになる。国の指針でも、未習部分については、学年間及び学校間での引継ぎ・連携を行い、新年度に実施すると示されている。中学校3年生は、受験も控えていたため、未習部分はないものと考えている。

委員 施策3-3に関して、社会福祉協議会においても、フレイル予防・介護予防、地域での高齢者の集いを推奨している。以前は、気軽に高齢者が集う場として老人福祉施設の寿山荘があった。米沢市の人口規模で、老人福祉施設がないことに対し、色々な意見をもらっているが、市では老人福祉センターの建設を今後予定しているのか。また、建設が不可能であれば、現在ある施設の中で、老人福祉センターといえるものがあるのか教えて欲しい。

また、資料4・12P目指す目標値に、老人クラブの加入者数が設定されている。社会福祉協議会には老人クラブ事務局があり、2,100人の前期目標値に向けて取り組んでいるものの、今年度実績では、加入者数は1,200人程度となっている。老人クラブ数自体にも減少が見られる中、老人クラブを廃止する理由を聞くと、活動費補助を受ける為に必要な予算書・決算書等の記載が難しい、市内に老人福祉施設のような高齢者が気軽に集まれる場所がない、リーダー的な人が病気等になってしまった等の理由から廃止するようだ。後期目標値において、老人クラブ加入者を1,400名と設定されているが、目標設定の根拠を教えて欲しい。

健康福祉部長 現段階で、老人福祉センターの構想はない。指摘のとおり、コミュニティセンター等の身近な場所で、高齢者が集う機会を作ることは大切なので、機能面において、高齢者が気軽に集まれるような取組を進めていきたい。老人クラブについては、指摘いただいたように、書類の簡素化ができないか等検討したいが、老人クラブ加入者数の減少は、生活様式の多様化も原因ではないかと思う。多くの方が老人クラブに参加することは重要だと思うので、頂いた意見を踏まえ今後検討する。

委員 資料4・15P市民に期待する役割「障がいのある人への理解を深めましょう」というのは、市民の役割として適切なのか。理解を深めることはもちろん重要であるが、「障がいをお持ちの方が困っていれば、お手伝いをしましょう」などのようなもっと行動につながるような表現に変更した方がいいのではないか。

健康福祉部長 確かに、抽象的な表現になっていると思う。市では条例の制定に合わせ、シンポジウムや演劇公演、芸術作品展の開催、スポーツ教室の開催などを実施しているが、それらを障がいのある人への理解を深めるという言葉でまとめてしまっているため、具体的でないというご指摘になったと思う。表現について、検討していきたい。

委員 資料4・7P屋内遊戯施設について、事務局より整備をするという説明があったが、具体的な整備内容を教えて欲しい。

健康福祉部長 屋内遊戯施設については、去年すこやかセンターのプレイルームを改修した。市民からの要望も強く、これまで整備について何度も検討してきたが、市では、公共施設の面積を減らしていくという方針であるため、既存の施設を改築等しながら、整備を進めていく予定だ。現在、どの施設を利用するか等の検討を始めたところである。

委員 すこやかセンターに整備されたもくいくひろばについては、対象が未就学児であるため、兄弟で遊べない場合もある。また、実際に行ってみると、母親が一緒に遊ばず、スマホに夢中になっている姿も見られる。わざわざ他市の屋内遊戯施

設に足を運ぶ母親も多いようなので、本当に必要とされている施設だと思う。子どもだけで遊ぶことができる空間に加え、お母さんが少しほっとできるような図書室的な空間、デパートで買い物する際に子どもを預けられる場所といった複合的な施設であればいいと思う。既存の施設の改築を検討する際には、そういった考えも入れて欲しい。

健康福祉部長 もくいくひろばでは、対象年齢が限られているなどまだ不十分であり、屋内遊戯施設への要望が大きいということは、こちらでも理解している。現在検討している施設では、大きなお子様も遊べる満足できる施設にしたいと思う。貴重な意見に感謝する。

委員 市民が死亡した際の米沢市の体制について伺いたい。これまで20名程の高齢者の成年後見人を引き受け、8名が死亡し、その内3名の葬式・埋葬までを行った。本来であれば、死亡するまでが後見人の仕事であり、死亡した後は家族、家族の無い人であれば、市町村長に法律上義務があるものの、米沢市では、こちらに任されてしまう。他の市長村では、市町村長が成年後見人申立てを行っており、火葬場まで連れていけば、後は職員でやってもらえるところもある。その辺りの体制について教えてもらいたいと同時に、今後、独居老人が増える中で、皆が安心して死んでいけるような体制づくりについて、どのように考えているかを教えて欲しい。

健康福祉部長 成年後見制度については、置賜定住自立圏構想の中で3市5町で取組を開始したようなので、その内容について、次回説明させてもらいたい。

委員 死亡した際には、当然家族が対応すべきだと思っているが、本当に身寄りの無い人がいるので、そういった人達への対応を考えていただければと思う。

委員 高齢者に関する記述の中で、認知症に関する施策がないように感じる。米沢市において、認知症対策へのニーズは高くないということか。また、子育て支援は充実しているように感じられるが、高齢者へのケアをしている人達への支援が不十分でないかと思う。介護をしている人達が集まれる場、相談できる機会等があればいいのではないかと思う。

健康福祉部長 認知症の記載はないとのことだが、認知症予防の重要性は感じており、市でも様々な取組、先程紹介した介護予防事業などを行っている。認知症になってしまった場合も、市の様々なサービスを利用し対応してもらうことになる。意見を踏まえ、総合計画での記載については検討したい。また、介護をしている人達の意見交換の場等については、現状も含めて後程説明させてもらいたい。

委員 資料4・7 P3-2-6に記載されている結婚支援だが、結婚を阻害している要因は、若者の貧困化・不安定化だと思う。米沢市に残ってもらうには、安定した雇用が必要だという意見もあった。3章記載の結婚や出産に結びつく支援を考える際には、1章に記載されている安定した雇用をセットに考えて欲しい。結婚・出産を考える上で、安定した雇用が不可欠だということだ。ぜひ、そういった施策を1章か3章のどちらかに入れて欲しい。

事務局 結婚支援について、雇用が重要だというご意見を踏まえ、どのように整理するか検討したい。

- 会 長 他に質問がないので、「(2) その他」について事務局から説明をお願いします。
- 事務局 委員のお手元に、次回日程調整表を配布しているため、3月19日(木)までに提出をお願いしたい。また、本日の審議会で不十分な点については、先程説明したように、質問等記載様式に記載のうえ、3月27日(金)までに事務局まで提出して欲しい。
- 委 員 情報提供となるが、来年度の米沢市芸術文化祭のオープニング企画として、「アーツよねざわ 100祭」という展示が4月14日から予定されている。高齢者、若者、幼稚園児童達の展示を一同に集めた今回のような企画は初めての試みであり、子育てと健康長寿という後期基本計画にも合致すると思うので、皆様にはご覧いただければと思う。ナセBAで展示予定である。
- 会 長 前期計画を策定する際、これまで何度か説明したように、米沢ならではの特殊解として、学園都市という言葉を導き出した。これまでの審議の中で、米沢ならではの特色が色々と見えているが、これからの各章においても、そのあたりを意識していただき、ご意見をいただければと思う。本日の、スムーズな議事運営に感謝する。
- 事務局 次回審議会の案内は、後程送付させてもらう。今回は、4章・5章についての説明とともに、本日の審議会では回答できなかった部分について回答させていただく。以上で、審議会を終了する。